

## 第1回奈良 ESD 連続セミナー

大西 浩明

◇日時：2025年5月13日（木）19時～21時

◇方法：Zoomによるオンライン形式

◇参加者：40名

◇内容：「SDGsとESD ～誰一人取り残さない社会をめざして～」

奈良教育大学准教授 及川幸彦先生

ESDをやろうと思ったら、SDの部分を正しく理解しないといけない

そこを分かりやすく整理したものがSDGs

形だけのESDにならないように注意しないといけない

持続可能な社会ではないのだからESDが必要

◎SD（持続可能な開発）とは？

経済成長、社会的包摂、環境保護という3つの主要素を調和させることが不可欠

それをできなかった代表例が気候変動 「今さえよければ」という風潮が現代にはある

◎ESDとSDGsが生まれた背景 ～持続不可能な諸課題～

絶え間ない紛争と対立（宗教対立、民族紛争等）

顕在化する環境問題（気候変動、生物多様性、海洋問題等）

苛烈化する自然災害（地震、津波、台風、風水害、干ばつ等）

グローバル化と自国主義（難民、外国人労働者と保護主義）

経済的格差の拡大（一部の富裕層が大部分の富を掌握）

科学技術の進歩と社会構造の変革（AIの台頭、society5.0）

人口格差（途上国の人口爆発と先進国の労働者不足等）

感染症の拡大（新型コロナウイルスのパンデミック）

### 世界の紛争や暴力、差別の問題

・約2800万人の子どもたちが紛争で故郷を奪われる（2015年）

・推定1億5200万人の子どもたちが働かされている（2017年）

・15歳未満で結婚した女性が世界に推定2億5000万人（2014年） など

ウクライナ侵攻とパレスチナ戦争

### 子どもの貧困と不平等

年間520万人の子どもが5歳前に死亡（6秒に1人）

極度の貧困状態下の7億1000万人のうち、子どもが3億5600万人

5900万人の小学校就学年齢の子どもたちが学校に通えていない

山林火災や干ばつが増え、動植物が絶滅したり生物多様性が失われたりしている

### 森林伐採と持続可能な生産・消費（パーム油）

パーム椰子から取れるパーム油は、食品、洗濯洗剤、医薬品などに幅広く利用されている

日本などの先進国はじめ世界各国に輸出

パーム椰子農園の急激な拡大に伴う熱帯雨林の伐採、生物多様性の喪失、土地の劣化、山林火災の多発

### 海洋プラスチックの生物への影響

絡まり（ゴーストフィッシング）、誤飲・誤食

分解されず、細かく碎ける → マイクロプラスチック、ナノプラスチック

有害物質の付着 生態系への影響

海の世界連鎖で蓄積される 魚介類を通じて人間も？

### 相対的貧困率の国際比較と貧困の連鎖

日本の貧困率は OECD の平均を上回り、G7 ではアメリカに次いで高い

学力や就職、経済力の格差につながる → 貧困の連鎖によって再生産されている

### 日本のジェンダーの格差

先進国では最低レベル（156 か国中 120 位） G7 の他国は改善傾向にあるのに

特に政治分野で低い

### いじめと児童虐待

いじめの認知件数は前年度より約 13 万件増加（平成 30 年度）

児童虐待相談件数が年々増加 身体的虐待とともに心理的虐待が増加

### ◎SDGs の特徴とめざす世界

「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」

誰も置き去りにしない

### 持続可能な開発の 3 つの側面

経済成長、社会的包摂、環境保護という 3 つが調和しないと持続可能な社会にはならない

1992 年 地球サミット → MDGs → SDGs

MDGs（8 ゴール 21 ターゲット）から SDGs（17 ゴール 169 ターゲット）へ

途上国に向けた目標

すべての国の目標

SDGs はすべての国の目標であり、包括的で互いに関連している

ウェディングケーキモデル



### MDGs から SDGs へ

①MDGs の深掘り（例：極度の貧困 → あらゆる貧困） 1・2・3・4・5・6

②先進国にも関わりの深い新たな課題 7・8・9・10・11・12・13・14・15・16・17

## SDGs がめざす世界像

- ①すべての人生が栄える、貧困・飢餓・病気および欠乏から自由な世界
- ②人権、人の尊厳、法の支配、正義、平等および差別のないことに対して普遍的な尊重がなされる世界
- ③すべての国が持続的で、包摂的で、持続可能な経済成長と働きがいのある人間らしい仕事を享受できる世界

→ 「誰一人取り残さない」世界の実現

普遍的：目標は普遍的なものであり、すべての国とすべての人による行動を必要とする

すべてが関連しているので、1対1対応、個別対応ではいけない 総合的に取り組むことが必要  
幅広く野心的であり、「誰も置き去りにしてはならない」ことを強調

## ◎ESD とは何か？

### 第2期 ESD 国内実施計画（2021年5月策定）

「…新たな価値観や行動等の変容をもたらし、もって持続可能な社会を実現していくことを目指して行う学習・教育活動のことである。」

### SDGs 達成に資する ESD の教育的価値

- ①ESD に取り組むことで「教育の質が向上する」 E を重視する視点
- ②「教育が持続可能な社会づくりに貢献する」 SD を強調する視点

この両輪の連結こそが ESD を特徴づけるものであり、価値を示すもの

### SDGs と教育

目標4「質の高い教育をみんなに」 ESD for 2030

教育はすべての SDGs の実現のカギである

SDGs に向けた教育を推進することが、人材育成を通じて SDGs 達成につながる

そう考えると、ESD は目標4にとどまるものではない

### 気候変動からの SDGs への多角的アプローチ



### ESD ユネスコ世界会議での日本からの発信（ベルリン会議）

ESD の世界では日本はトップランナー

- ・ ESD をナショナル・カリキュラム（学習指導要領）に組み入れ、公教育で組織的・計画的に推進
- ・ 政府に「ESD 関係省庁連絡会議」や「ESD 円卓会議」を設置し、マルチステークホルダーとの連携のもとオールジャパンで ESD を推進
- ・ 各地域における課題解決と地域創生を目指して、地域に根差し、地域の文脈に即した ESD を推進

## ベルリン宣言のポイント

- ①気候変動を基軸とした相互関連的な ESD
- ②教育の各段階・各分野における包括的な ESD
- ③科学知識や新技術へのアクセスした ESD
- ④緊急的かつ喫緊の課題に対応した ESD
- ⑤ESD 推進の体制づくりとネットワーク構築

### 17 の SDGs 達成における教育の役割を重視

- ・ ESD は教育現場における 17 の目標に対する意識を高める（認知的学習の次元）
- ・ ESD は SDGs についての批判的かつ文脈に沿った理解を促す（社会的・情緒的学習の次元）
- ・ ESD は SDGs 達成へ向けた行動を結集する（行動学習の次元）